JICA 海外協力隊 2023 年度 1 次隊 ザンビア 障害児・者支援 村上 恵里佳　　2024. 1.15　No.5

Zikomo kwambiri!

ジ コ モ　　ク ワ ン ビ リ

Happy New Year!

Muli Bwanji(ムリブワンジ)？ 明けましておめでとうございます。ザンビアでも無事に新年を迎えることができました。しかし日本のまったりしたお正月とは異なり、ザンビアでは新年をあまりお祝いしないので日本人の私としては新年を迎えた感覚があまりありません。初〇〇という概念、もしかしたら日本だけなのでしょうか？とにかくいつもと変わらない日常を過ごしています。ただ、今年初めて会う同僚や街の人とは”Happy new year” とお互いにあいさつします。”Happy new year.” ”Thank you. Same to you.” と知らない人とも気さくにあいさつをして、「ザンビアで新年を迎えたのだ」と実感しました。

Reception Special での 3 か月を振り返って・・・・

ザンビアに来て早くも5か月、配属されて4か月が経ちました。12月で学期・年度が終わり一区切りということで、今回はこの1学期間を振り返りたいと思います。私の配属先は首都ルサカにある公立小学校に併設された特別支援学校です。学期ごとにクラスを巡回し、担任の先生と協力しながらの児童・生徒への直接の指導や教材の作成を通して、子どもたちの学びを促進すること、教員の授業力を向上させることを目標に活動しています。最初の学期は Reception Special という0年生のクラスを担当しました。

教室を広々と使えるように机の配置を少し替えました。

0 年生といっても、年齢や障がいの特性は様々。さらに人数も一番多くなんと在籍 24 人。担任の先生も 2 人いましたが、異動や病休の関係で 1 人に減ってしまい、その担任の先生も何かと理由をつけて教室を去ると永遠に帰ってこない！その間子どもたちは遊ぶ、喧嘩する、泣くと、言ってしまえばカオスな状況です（笑）これがアフリカか…！と最初は怖気づいていましたが、子どもたちが怯えて黙って座っているよりも、それぞれがそれぞれの方法でリラックスして学校生活を過ごせていること、そして子どもたちへの愛情を欠かさないこと。「子どもたちにはこのクラスをホームのように感じてほしいの」と言っていた担任の先生。それを実現できている現地教員から見習うこともたくさんあるなと感じました。

授業で作った児童の作品は壁に飾ったりします。

そして特別支援学校の子どもたちはやっぱり素直です。興味を示すものにはノリノリで「私もやりたい」と積極的です。よく「障がいの特性上集中力が続かない」と言いますが、集中できないのはその子にとって面白くないからで、好きなことや興味があることは永遠にできる、そんな一面も持っています。そのため、少しでも子どもたちが楽しめるようにと意識しながら授業をしていました。

協力隊として、また特別支援教育において、私だけが授業をするのではなく一緒に授業をしていきたい、複数の目で子どもたち一人一人と向き合うことが大切だという想いがありました。そのため、上記のような状況でも、担任の先生をどう巻き込んでいくかをかなり意識して日々の授業に取り組んでいました。ただ、子どもの楽しい学びを意識しつつ、担任の先生にも興味をもって意欲的に参加してもらう…そんな授業を考えることは本当に難しくて、満足のいく結果になった授業は片手で数えられるほど。それでも学期が終わった今、朝の会に参加できなかった子が自ら進んで私の隣に座るようになったり、「この子がこんなに集中しているなんてこの活動好きみたいね」と担任の先生が言ってくれるくらい子どもたちが活動に取り組んでくれたり、担任の先生が子どもたちのために動く姿を見れたりと、少しでも変化が感じられてうれしく思います。教育は目に見えて成果が出ないため、日々モチベーションを保って活動することはやはり難しいです。ですが、これからも子どもたちの小さな変化に気づいて、それを教員間で共有していきたいなと改めて思いました。

教具①
個別の活動用の教具。

作品①

紙をちぎる感覚遊びと手先を動かす練習。

教具②
説明やアクティビティで使った教材。

作品②

テーマが裁縫だったので糸を結ぶ練習。